

うり我身わがをもうり、子孫こひ孫ともにながくくる

しむ事に候、此義ぎを能々考かんかへ、身持みもちを仕る

へく候、まへかと米貳俵のじぶんハ少しすこ乃

やうに存候へとも、年々の利分つもり候へハ、かくの

如くに候、扱又何とそいたし、米を貳俵ほと

もとめ出し候へハ、右の利分くハへ、十年目めに米百

拾七俵もち候ハ、百姓のために其有徳そのうとくなる事

これなきや

一山方やまかたは山のかせぎ、浦方うらかたハ浦のかせぎ、夫々それぞれに

こゝろを付、毎日まいにちゆだんなく、身みををしまず

かせき申へく候、雨風あめかぜ又は煩わづらひ隙入ひまわり候事も

これあるへき間、かせきにてまうけ候もの、

むさとつかひ候ハぬやうに仕るへき事

一山方・浦方には人居ひとゐも多く、不慮ふりよなるかせぎも